

SPORT FOR TOMORROW と日本のスポーツ振興

東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科菰ゼミ A チーム

○井上 穂乃佳 蛭澤 友香 菊池 翔太 田村 大地 保科 匠

1. 緒言

現在、日本は 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて様々な政策がある。その一つとして 2014 年から 2020 年までの 7 年間で、開発途上国をはじめとする 100 か国、1000 万人以上を対象に、日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業「SPORT FOR TOMORROW」(以下 SFT)というプロジェクトがある。SFT は世界のよりよい未来を目指し、スポーツの価値を伝え、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントをあらゆる世代の人々に広げていく取り組みである。SFT は外務省、スポーツ庁及び関係諸機関による既存・新規プログラム、会員団体による認定事業で構成されている。これを「コンソーシアム会員(図 1)」と呼んでいる。コンソーシアム会員を通してこの政策を続けていくことができれば、SFT の目的である国際貢献をさらに発展させていくことができる。しかし、課題はまだ多く、それらについての問題を提起し解決していきたい。

2. 現状と課題

我々は SFT のホームページや SNS で活動について調べたとき、コンソーシアム会員同士の連携を利用して行われた企画が少なく、実際は図 2 のようになっているのではないだろうか疑問に思った。そこで、私たちは SFT 事務局のディレクターにお話しを伺ったところいくつか課題があることが分かった。

(1) 活動内容について

ア コンソーシアム会員は年々増加しているが、積極的に活動している団体は少ない

イ コンソーシアム会員同士の関わりが少なく、共同政策などが無い

(2) SFT の認知度の低さ

2016 年 10 月現在ではコンソーシアム会員数は 225 団体であり、会員数はまだ十分とは言えない。これから会員数を増やしていくためにも国内での認知度が低いということは、本来の目的である国際貢献事業の拡大にとって大きな弊害になるのではないか。

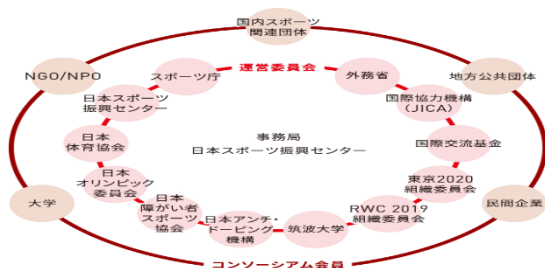


図 1 SFT コンソーシアム会員図

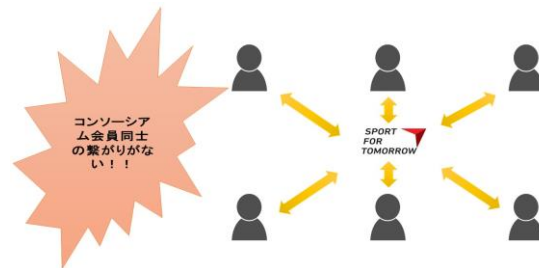


図 2 コンソーシアム会員の現状

3.提言

(1) プロジェクトの概要

我々は SFT の国内での認知度の向上、並びにコンソーシアム会員の増加を目的として 2017 年から 2020 年東京オリンピックまでの 4 年間実施する「SFT 日本縦断大作戦！！」(図 3)を提案する。このプロジェクトでは全国各地で、その地域のコンソーシアム会員とまだ会員ではない団体が連携してスポーツイベントを行う。

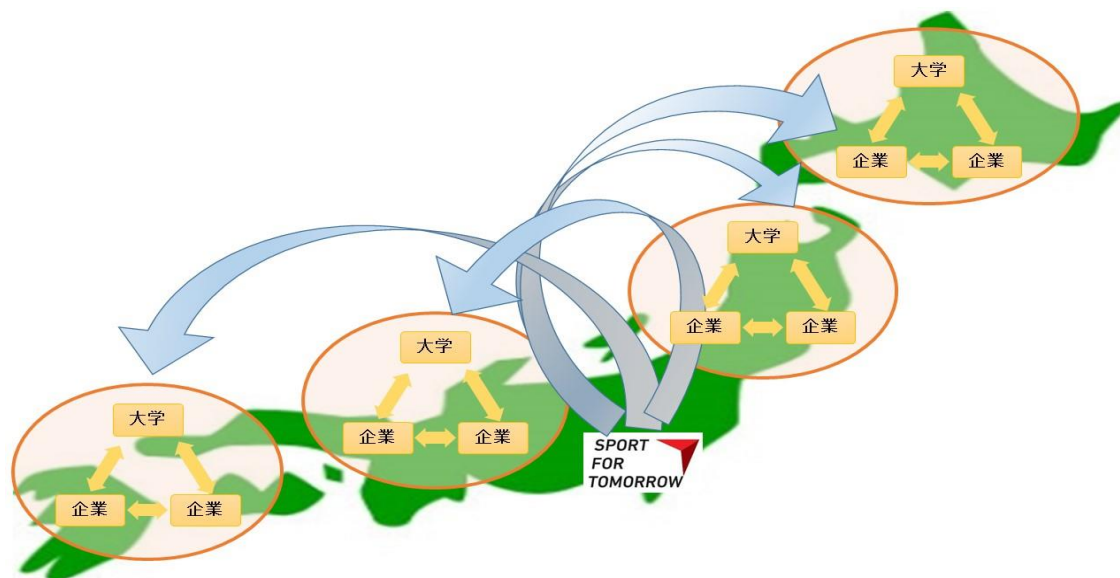


図 3 イベント全体のイメージ図

(2) プロジェクトの内容

このプロジェクトでは図 3 のように SFT が全国各地で行うイベントの企画をする。我々は最初の 1 年間で行う 4 つのイベントを企画した(表 1)

企画：SFT

3 ヶ月ごとに一つの地方で開催するイベントを企画しその統括を行う。コンソーシアム会員を中心にイベントの担当を割り振り、会員でない団体に対して協力を促す。

運営：各地方の大学のボランティア団体

イベントを開催する各地方の大学のボランティア団体が運営の中心となり、必要な物資や場所の提供は各企業、協会などが行う。大学のボランティア団体を運営の中心とした理由は 2 つある。イベントを運営するにあたり必要なスタッフを安定して確保できる点と、多くの企業と連携しイベントを運営するという貴重な機会を各地の大学生に供給することができるという点である。

表 1 2017 年イベント予定表

月	場所	内容
1 月	東京	マラソン
4 月	鹿児島	登山
7 月	埼玉	サッカー
10 月	北海道	サイクリング

4.具体的な企画の例

2017年1月に開催するマラソン大会の具体的な計画を提案する。このイベントは「SFT日本縦断大作戦！！」において開催する最初のイベントのためインパクトのあるものにしたい。また、国際交流の場も設けるために外国人の参加しやすい環境を作る。

(1) マラソン大会を提案した理由

ア 気軽に始めることができる

イ 初期投資が少ない

ウ 老若男女関係なく楽しむことができる

また近年は運動不足による生活習慣病の予防としてもマラソンは注目されている。これらのことからより多くの参加者が集まることが予想できる。

(2) 開催地が東京である理由

ア 2020年東京オリンピックとの関連性を持たせたい

イ 東京は空港や公共交通機関が充実しておりアクセスしやすい

ウ SFT事務局が東京にあるため企業や大学と連携を取りやすい

エ 東京には外国人が多く滞在している

(3) イベント詳細

テーマ：誰でも気軽に参加でき、楽しめる国際的なイベント

イベント名：東京インターナショナルミニマラソン

イベント内容：ハーフマラソン

場所：東京 ヘリテッジゾーン^{注1} (図4)

対象者：19歳以上

参加者数：10000人

参加費：5,000円

※外国人は3,000円



図4 ヘリテッジゾーンの図

(4) 運営主体

この大会の運営の中心は東海大学のスポーツ社会貢献プロジェクトが担当する。東海大学は全国各地にキャンパスがあるため、このイベントを機に連携を取り始めることにより全国各地でイベントを行う場合でも場所の提供や、運営人員の確保をより確実なものにすることができる。また、コンソーシアム会員の役割として表2のようにまとめた。

表2 役割分担表

運営班	スポーツ庁、各大学 ボランティア など
広報班	朝日新聞社、毎日新聞社、エイチ・アイ・エス など
物品班	アディダス、大塚製薬、など
救護班	東京消防庁 など

5.結果と考察

このイベントをきっかけに各団体、国民などに対し SFT の理念、活動の認知度を大幅に向上させることができる。それにより、各団体が SFT の活動に参加するということ自体がその団体のイメージアップにつながるというメリットを見出すことができる。

2020 年までの 4 年間全国各地で様々なイベントを開催することで全国各地にコンソーシアム会員を増やし、SFT 本来の目的である国際貢献事業の拡大を図る。また、外国人との交流を持つことで日本国内のグローバル化を促進させる。そうすることで SFT の国内での存在意義、利用価値が高まる。その結果 SFT を単なる東京オリンピックのアピール材料として終わらせるのではなく、東京オリンピック後も日本の国際貢献の看板事業、また東京オリンピックのレガシーとして残るのではないかと。

注 1) 国立代々木競技場や日本武道館など 1964 年の東京五輪に使用された競技場があるエリア

<参考文献>

- ・オリンピック会場一覧 | 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
<https://tokyo2020.jp/jp/games/venue/olympic/>
- ・SPORT FOR TOMORROW
<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>
- ・一般財団法人東京マラソン財団
<http://www.tokyo42195.org/>